

特集 コロナ禍の今、できることを



- ①9/2 オリエンテーションをする。
 - ②背景画面を好きな画像に変更してみる。
 - ③教室外で接続練習をする。
 - ④質問に手を振って応える。
 - ⑤9/8 オンライン朝の会で一人一人出欠をとる。
 - ⑥全員出席でオンライン学習をする。
- ①～⑤：松岡小 ⑥と表紙：松岡中



オンライン朝の会で、元気に声掛けをする松岡小学校の富山校長

ウイルスから子どもを守る



消毒作業のプロである清掃業者が、市内小中学校の消毒を徹底。階段の手すりやトイレなど手で触れる場所を、消毒液を含ませた布で拭き上げます。

感染リスクを下げるだけでなく、教員の負担軽減にもつながります。

2学期はリモートスタート

パソコンの画面越しに先生が名前を呼ぶと、マイクを通して答える子どもたち。声だけ聞いていたら、まるで普段の教室のようです。一人一人の様子を確認するため、真剣に画面に向き合う先生の眼差しが印象的でした。

中学校では、オンライン学習がさらに深まり、グループごとに問題作りにも取り組んでいます。松岡中学校の千葉先生は「大人が心配していたよりも順応している。自宅にいて参加できる良さもある」と話されました。

異例のスタートとなった2学期。開催予定だった体育祭も延期となり、今後も行事や生活の制限が予想されます。

しかし、どのような状況でも、子どもたちの成長を願い育み、今できる最善の方法を見出していくことが求められています。

特集 コロナ禍の今、できることを



緊急 急事態措置が県内全域に要請され、市内小中学校は、9月1日から26日までリモート対応となりました。(9月17日現在)

リモートとは、学校にいる先生と自宅などにいる子どもたちが、インターネットを通じてつながることを意味します。学習は、一人一人がタブレットを使ってオンラインで行われます。本格的に実施されるのは、今回が初めてです。

つかの間の再会

9月1日からの3日間に、子どもたちは、夏休みの課題や宿題を提出し、タブレットを受け取るために登校。隣との距離が保たれた教室で、久しぶりの再会を喜ぶもつかの間、オンラインセッションが行われました。「限られた時間の中で子ども一人一人の心身の健康状態を確認することが最も大切なこと」と話す松岡小学校富山素男校長。